サ

ン

ゴ

Stony coral / Acropora / Midori-ishi / ミドリイシ

ミドリイシは 180 種類以上の世界の温暖な浅瀬に生息する岩のような硬いサンゴの総称である。奄美大島周辺の沿岸のサンゴの森は主にミドリイシやその仲間で形成されている。サンゴは幅 2mm の個別のサンゴポリプが集まってでき、成長しながら炭酸カルシウムの骨格を集めたコロニーを形成する。サンゴの中でも成長が早く、種類によっては 20～30cm も伸びる。サンゴポリプは骨格から伸び、懐中のプランクトンや有機物を食し、触れられると引っ込める。このサンゴは主に茶色だが、緑、青、紫などの他の色もある。平たい土台から短い枝を伸ばし、水平の面が特徴のテーブルサンゴを形成したり、長く垂直に伸びる枝サンゴもある。初夏にはダイバーがサンゴポリプが放つ精子と卵が水面ではじけ、大雪のごとく海底に降り注ぐ様子を目撃することができる。枝の間の空間は魚や無脊椎動物など、海洋生物の住処や隠れ家でもある。奄美大島のサンゴは環境の変化に大きく左右され、約 20 年前にサンゴの白化現象があったが、今は元の状態に戻った。